

運動部活動の外部化に対する教員の態度を規定する要因

スポーツクラブマネジメント研究領域

5021A305-8：小島 邦裕 研究指導教員：間野 義之 教授

緒言

近年、教員の労働環境において、働き方や長時間労働が問題視されている。教員の長時間労働の要因の一つに部活動が上げられ、教員の働き方や労働環境に大きな影響を及ぼしている。「生徒にとっての持続可能な部活動」、「教員にとっての業務負担軽減」、これら両方の改革を実現すべく学校の働き方改革による部活動の外部化が、今後期待される。しかし、部活動の外部化の改革は、今回が初めてではない。これまで幾度となく、運動部活動の外部化の試みは検討されてきた。部活動の位置づけが変転する歴史において、教員の部活動への心情は、今回の学校の働き方改革を受けて、部活動の外部化をどのように捉えているか。これまで、部活動の外部化について様々な研究があるが、学校の働き方改革を受けての部活動の外部化に対する教員の態度を検討した研究は、未だ限定的である。本研究では、特にこれまでの部活動にかかわる制度の返還を概観した意見を収集するため、40代以上の教員に、また、比較的部活動にかかわりが深いと思われる保健体育科の教員に注目した。本研究の目的は、学校の働き方改革による部活動の外部化について、教員の背景と心情を調査し、部活動の外部化に対する教員の態度を規定する要因を明らかにすることである。

研究方法

対象者は、先行研究の知見から、特に部活動とのかかわりが深い保健体育科教員を中心に選定した。対象者の地域、男女比、学校などの属性に多

様性が生まれるよう配慮し、保健体育科教員6名を含む9名の教員を選出した。

対象者1名に対して45分から1時間15程度の半構造化インタビューを実施した。インタビューに先立ち、対象者には、事前に本研究の目的を説明し、個人情報厳守されること、研究以外の場合では開示しないこと、答えづらい内容は答える必要がないことを説明した。また、インタビュー内容はボイスレコーダーに録音し、逐語録として文章化することも確認し、同意を得た。

分析手順は、録音したインタビュー内容を逐語化し、部活動の外部化に対する教員の態度に影響を与えた項目を抽出し、意味単位でのコード化を試みた。生成されたコードは小カテゴリ、中カテゴリ、大カテゴリへ分類した。

結果・考察

本研究の結果では、部活動の外部化に対する教員の態度を規定する要因として、【ガイドライン2018に対する態度】や【専門外の指導ストレスに対する態度】、【部活動に対する教員の信念】、【外部指導員に対する態度】の4つのカテゴリが抽出された。対象となった教員のうち、部活動外部化に対して肯定的な態度を示したのは7名、否定的な態度を示したのは2名であった。保健体育科教員に限っての肯定的な態度と否定的な態度に至っては6名中、肯定的な態度は4名、否定的な態度は2名であった。

部活動の外部化に対して否定的な態度を示す教員に共通するコードは、【ガイドライン2018に対する態度】の4つの小カテゴリ中から<活動時間の

制限>、<休養日の設定義務>、<管理側の変化>の3つのカテゴリが共通して抽出され、【専門外の指導ストレスに対する態度】からは他の教員からの部活動に対する<期待とストレス>という1つの小カテゴリが抽出された。

部活動外部化に対して肯定的な教員と否定的な教員の態度の比較では、部活動の外部化に肯定的な態度を示す教員は、部活動を「教育課程外」と捉え、外部指導員に対して「期待」を抱く傾向にあり、否定的な態度を示す教員は、部活動を「教育の一環」と捉え、外部指導員に対して「不安」を抱く傾向にある。また、【部活動に対する教員の信念】の<教育課程の一環と捉える部活動>は否定的な態度を示した教員のみのものであった。このことから、外部化に否定的な態度を示す教員は、部活動を教育の一環を捉える信念を持ち、現

在も部活動に取り組んでいると推測される。

結語

本研究では、運動部活動の外部化に対する教員の態度を規定する要因を明らかにした。昨今での部活動の外部化による世間の認知と関心が高まる中、部活動現場の唯一の提供者である教員の心情についての知見を広げることに貢献できたことで、社会的意義を有していると考えられる。

また、運動部活動に積極的に取り組んでいると思われる保健体育科教員に着目しての先行研究の知見は多いとはいえない。本研究では、主に保健体育科教員を中心にインタビュー調査を実施して分析した点を学術的意義としたい。